

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成22年5月20日 (2010.5.20)

【公表番号】特表2009-531463(P2009-531463A)

【公表日】平成21年9月3日 (2009.9.3)

【年通号数】公開・登録公報2009-035

【出願番号】特願2009-503253(P2009-503253)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/06 (2006.01)

G 0 1 N 33/53 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/513 (2006.01)

A 6 1 K 31/7068 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 45/06

G 0 1 N 33/53 K

A 6 1 P 43/00 1 2 1

A 6 1 P 43/00 1 1 1

A 6 1 K 39/395 D

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 P 35/00

A 6 1 K 31/513

A 6 1 K 31/7068

【手続補正書】

【提出日】平成22年3月29日 (2010.3.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

有効量の V E G F アンタゴニストを骨髓性細胞減少薬剤と組み合わせたことを特徴とする、被検体の耐性腫瘍治療薬。

【請求項 2】

さらに、有効量の化学療法剤と組み合わせたことを特徴とする、請求項 1 に記載の治療薬。

【請求項 3】

骨髓性細胞減少薬剤が、C D 1 1 b アンタゴニスト、C D 1 8 アンタゴニスト、G r 1 アンタゴニスト、エラスターゼインヒビター、M C P - 1 アンタゴニスト又は M I P - 1 アンタゴニストを含む、請求項 1 又は 2 に記載の治療薬。

【請求項 4】

V E G F アンタゴニストが抗 V E G F 抗体である、請求項 1 又は 2 に記載の治療薬。

【請求項 5】

アンタゴニストが抗体である、請求項 3 に記載の治療薬。

【請求項 6】

V E G F アントゴニストが抗 V E G F 抗体であり、骨髓性細胞減少薬剤が抗 C D 1 1 b 抗体である、請求項 1 又は 2 に記載の治療薬。

【請求項 7】

化学療法剤が 5 F U 又はゲムシタピンである、請求項 2 に記載の治療薬。

【請求項 8】

被検体の耐性腫瘍のインビトロ診断方法であって、
被検体の腫瘍から試験細胞群を得、試験細胞群における C D 1 1 b + G r 1 + 細胞の数ないしは割合を測定し、
試験細胞群における C D 1 1 b + G r 1 + 細胞の数ないしは割合を参照細胞群における C D 1 1 b + G r 1 + 細胞の数ないしは割合と比較し、そして、
参照細胞群と比較して試験細胞群における C D 1 1 b + G r 1 + 細胞の数ないしは割合の増加を検出し、このとき、C D 1 1 b + G r 1 + 細胞の数ないし割合が増加している場合に腫瘍が耐性腫瘍であることを示す
ことを含む方法。

【請求項 9】

さらに、被検体の脾臓サイズを測定し、被検体の脾臓サイズを参照脾臓サイズと比較し、このとき、脾臓サイズが拡張している場合に腫瘍が耐性腫瘍であることを示すことを含む、請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】

さらに、被検体に V E G F アントゴニストが投与された後に、被検体の腫瘍の血管表面積 (V S A) の数ないしは割合を測定し、腫瘍の V S A の数ないしは割合を参照 V S A と比較し、このとき、腫瘍の V S A の数ないし割合が増加している場合に腫瘍が耐性腫瘍であることを示すことを含む、請求項 8 に記載の方法。

【請求項 11】

V E G F アントゴニストが抗 V E G F 抗体である、請求項 10 に記載の方法。

【請求項 12】

さらに、
被検体の腫瘍から試験細胞群を得、
試験細胞群における C D 1 9 B - リンパ系細胞又は C D 1 1 c 樹状細胞の数ないしは割合を測定し、
試験細胞群における C D 1 9 B - リンパ系細胞又は C D 1 1 c 樹状細胞の数ないしは割合を参照細胞群における C D 1 9 B - リンパ系細胞又は C D 1 1 c 樹状細胞の数ないしは割合と比較し、そして、
参照細胞群と比較して試験細胞群における C D 1 9 B - リンパ系細胞又は C D 1 1 c 樹状細胞の数ないしは割合の減少を検出し、このとき、C D 1 9 B - リンパ系細胞又は C D 1 1 c 樹状細胞の数ないしは割合が減少している場合に腫瘍が耐性腫瘍であることを示すことを含む、請求項 8 に記載の方法。

【請求項 13】

さらに、
被検体の骨髓から試験細胞群を得、
試験細胞群における C D 9 0 T - リンパ系細胞、C D 1 9 B - リンパ系細胞又は C D 1 1 c 樹状細胞の数ないしは割合を測定し、
試験細胞群における C D 9 0 T - リンパ系細胞、C D 1 9 B - リンパ系細胞又は C D 1 1 c 樹状細胞の数ないしは割合を、参照細胞群における C D 9 0 T - リンパ系細胞、C D 1 9 B - リンパ系細胞又は C D 1 1 c 樹状細胞の数ないしは割合と比較し、そして、
参照細胞群と比較して試験細胞群における C D 9 0 T - リンパ系細胞、C D 1 9 B - リンパ系細胞又は C D 1 1 c 樹状細胞の数ないしは割合の減少を検出し、このとき、C D 9 0 T - リンパ系細胞、C D 1 9 B - リンパ系細胞又は C D 1 1 c 樹状細胞の数ないしは割合が減少した場合に腫瘍が耐性腫瘍であることを示すことを含む、請求項 8 に記載の方法。